1945年（昭和20年）

終戦前後と今の 井原市（いばら） 商店街図（いち）

●広島市安佐北区

■「うだつ」と「こて絵」のある旧家（H23年撮影）

■昭和レトロな元病院（H23年撮影）

■神ノ倉山・荒谷山にはスカイスポーツ基地がある

■昭和レトロな「丸型赤ポスト」（H23年撮影）

白ひげに見える

■レトロな「蔵」（H23年撮影）

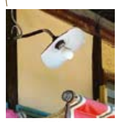
■江戸期の「石碑」（H23年撮影）

■今の「市明橋」（H23年撮影）

■元酒蔵の「赤煉瓦煙突」（H23年撮影）

■道標の「手印」（H23年撮影）

■「胡堂」（H23年撮影）



■昭和レトロな「電灯」（H23年撮影）

■浄満寺の「経蔵」（H23年撮影）

■浄満寺の古い「鬼瓦」（H23年撮影）

■醤油店の「鬼瓦」（H23年撮影）

■「龍」のレリーフ瓦（H23年撮影）

鳥・船・獅子などの瓦細工もある

■「かんぬき」（H23年撮影）

■マンホール（H23年撮影）

井原の史跡マップ

■井原には、たくさんの史跡があります。その中の、いくつかをご紹介いたします。

■「荒谷山」（H23年撮影）

●史跡へは、それぞれ標識を設置しています。

←荒谷山にて（H23年撮影）

スカイスポーツ基地（荒谷山）

↑荒谷山にて（H23年撮影）

↑鐘楼門（H23年撮影）

■戦国末期に現在地に移転。明治の大火で焼失。明治41年に再建された。

↑本殿（H23年撮影）

■江戸初期に現在地に移転。明治8年、火災で本殿は焼失したが、本尊の阿弥陀如来像は難を逃れ、今も伝えられている。

↑録泉寺古墳の遺構（H23年撮影）

■古墳時代、下井原を支配していた豪族のものではないかと言われている。全部で5基、その中の1基は市内では数少ない前方後円墳と見られている。

↑宮島タイプの鳥居（H23年撮影）

■弓矢の神様として武家社会に広く信仰され、度重なる戦争へ出陣する際にも武運長久を祈願した。

■鎌倉時代の城跡。城主は樋爪氏で早くから井原に居城を持った小領主である。

←日詰城の遺構（H23年撮影）

↓戸石城の遺構（H23年撮影）

●それぞれの城跡には、説明板を設置しています。参考にしてください。

↓光仙寺古墳の遺構（H23年撮影）

↑新宮神社の大イチョウ（H23年撮影）

↓新宮神社（H23年撮影）

■鎌倉時代に樋爪城主の樋爪氏が社殿を再建。神社のイチョウは樹齢700年といわれ、広島市最大、県下有数の巨木。市の天然記念物に指定されている。

↓北田之城の遺構（H23年撮影）

↑山門（H23年撮影）

■鎌倉時代に開基されたとの説もあるが定かではない。大正時代に今の形となる。

●春には桜、初夏にかけて、ツツジやフジ、秋には、モミジなどの紅葉が楽しめます。

↑神ノ倉山にて（H20年ごろ撮影）

↓井原元尚は強弓の使い手で、この「ふんばり石」で弓の稽古をしていたといわれる。（H23年撮影）

↓石組跡（H23年撮影）

■鍋谷城の出城。見張りを果たす上で大切な役目を持った城と思われる。

←頂上に見張城の遺構（H23年撮影）

市明橋から見た

■「神ノ倉山」（H23年撮影）

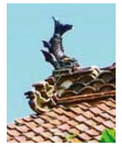
■交通の要所として栄えた井原市。時の流れの中で消えてしまった町並みをたくさんの人の証言を元に復元しました。

■現在の井原市の地図を開けば、そこには終戦前後の昭和の井原市があります。懐かしいあの時代に、思いを馳せてみませんか？

■明治期の「石碑」（H23年撮影）

■蒸気機関車の「車輪」（H23年撮影）

■昭和初期の「門柱」（H23年撮影）



■立派な「しゃちほこ」（H23年撮影）

■「地蔵堂」（H23年撮影）

■保存されてる「サイレン塔」（一部移設保存・H23年撮影）

■昭和レトロ建築（H23年撮影）

●毎月原則
第1・2・3金曜日開催
ただし第3金曜日が朝市の前々日になるときは中止

■今の「朝市」（H23年撮影）

●毎月第4日曜日
朝9時～昼12時（雨天決行）
●毎年5月の朝市は「ようこそのさかないち」として開催

■昭和レトロな「木の電柱」（H23年撮影）

鉄骨は元レール？

■大正ロマンの面影残す「ホーム屋根」（H23年撮影）

■レトロな「井原市駅」（H23年撮影）

■昭和レトロな「理容院」（H23年撮影）

■ポール型「バス停」（H23年撮影）

■駅構内の「つばめの巣」（H23年撮影）

■「芸備線」（H23年撮影）

橋脚や土台が舟形

■大正ロマンの「鉄橋の橋脚」（H23年撮影）

編集・発行
井原郷土史研究会
会長：大久保 伸郎
－協 力－
㈶広島市未来都市創造財団
広島市白木公民館
電話：082-828-0753
安佐北区役所区政振興課
電話：082-819-3905
●この地図は平成23年度広島市「住民に身近な地区別町づくりビジョン」推進費補助金交付事業の補助金を利用して作成しました
●平成24年3月第1版発行